

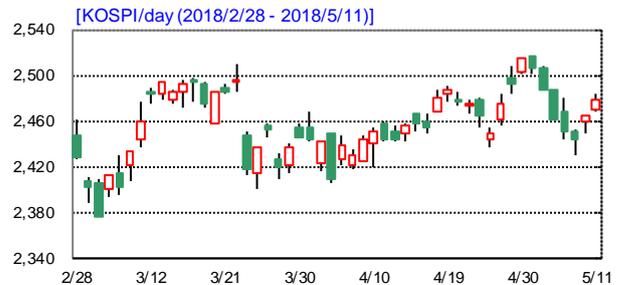


【韓国】 総合指数は週間で0.7%高と反発、米金利低下で資金流出懸念が後退

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.7%高と反発。7日が振替休日のため休場で4日間の取引だった。連休明けの8日は朝鮮半島情勢の先行き見極めムードが広がるなか前週後半からの4日続落でスタート。9日は5日続落し、1カ月ぶり安値を付けた。米国がイラン核合意からの離脱を表明し、北朝鮮の非核化交渉を巡っても不透明感が高まった。10日は6日ぶりに反発。北朝鮮が非核化を前提に経済支援を保証されるべきとの認識で中韓首脳が一致したことを受け、南北経済協力の推進期待から建設株や鉄道株が買いを集めた。11日は続伸し、1週ぶり高値を回復。米国のインフレ観測の後退で米金利が低下し新興国市場からの資金流出懸念が和らいだ。今週は史上初の米朝首脳会談の6月開催決定を受けた地政学リスク緩和への期待が支えか。

▼指数チャート

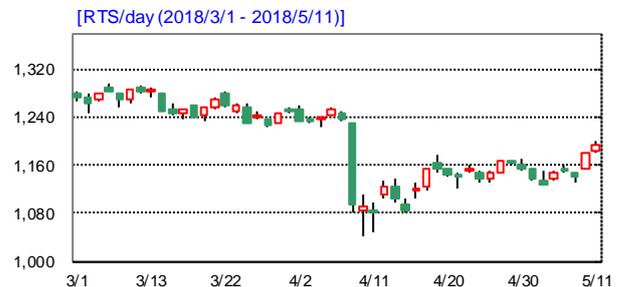


【ロシア】 RTS 指数は4.1%高と大幅反発、今週は原油高や通貨安定で堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で4.1%高と大幅に反発。原油相場が2014年11月以来の水準まで上昇したことが好感された。9日が戦勝記念日で4日間の取引となったロシア市場は、週初こそ西側諸国との関係悪化懸念などでもみ合ったが、休明けの10日に3.3%高と急伸。ロシアの主な輸出原油の指標となるブレント原油先物が米国の対イラン米経済制裁を受けて14年11月以来となる78ドル台まで上昇したことが好感された。RTS 指数は11日も前日比1.2%高と続伸して終了し、4月6日以来の水準を回復。年初来では3.4%高となった。個別では総合エネルギーのルクオイルが6.7%高となったほか、時価総額最大のズベルバンク・ロッキーが3.1%高となり、指数を押し上げた。今週は原油高や通貨ルーブルの安定を背景に堅調か。

▼指数チャート

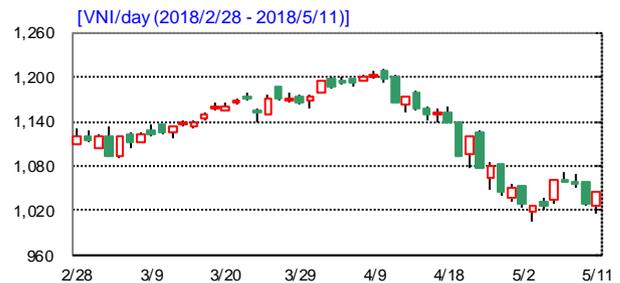


【ベトナム】 VN 指数は週間で1.8%高と5週ぶりに反発、今週は底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.8%高と5週ぶりに反発。前週までの4週続落で押し目買いが入ったほか、ドル全面高の流れが一服し、資金流出懸念が後退したこともベトナム株の支援となった。前週までの4週間で14.4%安となったVN 指数は、週明け7日に前週末比3.5%高と急反発してスタート。ベトナム・バンクが5%超上昇するなどの金融株が大幅高となった。8-9日も週の高値圏でもみ合ったが、10日は金融株が反落し指数も2.7%安と大幅下落。11日も売り優勢でスタートし、VN 一時は前週末水準を割り込んだ。しかし、売り一巡後は急反発し、前日比1.6%高と反発して終了。週初の上昇幅を縮小したものの、週間では5週ぶりに反発して終えている。今週は一定幅の調整を経たことやドル全面高の一服で底堅い展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.8% 高、今週は 15 日に 4 月の貿易統計発表

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 2.8% 高と 3 週ぶりに反発。1 週間にわたり不安定な値動きが続いた。週初の 7 日は中国へのパーム油輸出量が拡大する可能性が高まったことが好感され、指数は終値で前週末比 1.6% 高と 3 営業日ぶりに反発。同日に発表された 1-3 月期の GDP 成長率は前年同期比 5.1% と市場予想をわずかに下回った。8 日は米ドルに対するルピア安が進んだ影響で前日比 1.9% 安と反落。ただ、9 日に原油価格の急騰を受けて 2.3% 上昇すると、祝日を挟んだ 11 日も続伸した。今週は 15 日に 4 月の貿易統計が発表されるほか、17 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7% 高、今週は 4 月の非石油地場輸出に注目

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7% 高と反発。週末の反発が奏功した。週初の 7 日はオーバーシー・チャイニーズ銀行が売られて、指数は終値で約 3 週間ぶりの安値を更新。ただ、8 日は中国の 4 月の輸出入額が堅調な伸びを示したことが好感されて 4 営業日ぶりに反発すると、9 日はエネルギー株が指数上昇をけん引した。その後、10 日は反落したが、11 日は金融株が買われ反発して引けた。今週は 17 日に 4 月の非石油地場輸出が発表される予定で、前年同月比の伸びが 3 カ月ぶりにプラスを回復すれば好材料。外部要因では、15 日に中国で発表される 4 月の鉱工業生産や固定資産投資が意識されそうだ。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8% 安、米のイラン核合意離脱でエネルギー株が上昇

SET 指数は週間で 0.8% 安と反落。国内の重要イベントが少ない中、軟調な値動きが続いた。週半ばの 9 日は、米政府が前日にイラン核合意からの離脱を表明したことを受け、イラン産の原油供給量が縮小すると懸念から価格が急上昇し、エネルギー株が買われた。ただ、通信大手のアドバンスト・インフォ・サービスの下落が響き、指数は下落。10 日には終値ベースで 5 週間ぶりの安値を更新したが、11 日は 4 月の米 CPI 上昇率が市場予想を下回り、利上げ加速観測の後退が好感されて、前日比 1.1% 高と 7 営業日ぶりに反発して取引を終えた。今週は 16 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

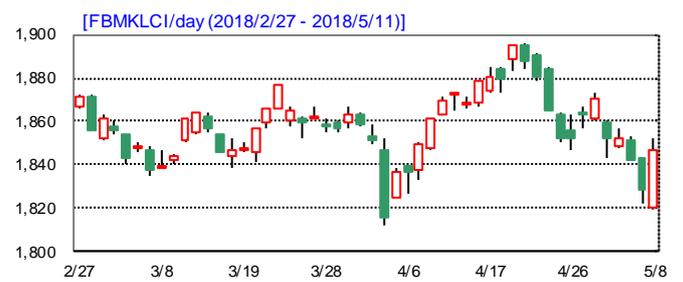


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3% 高、今週は 17 日に 1-3 月期の GDP 発表

クアラルンプール総合指数は 2 日間の取引で 0.3% 高と 3 週ぶりに反発。週後半は 9 日に投票が行われた下院議会総選挙でマハティール元首相が率いる野党連合が勝利したことを受けた特別公休日のため、休場となった。週初の 7 日は金融株を中心に幅広い銘柄が売られて 4 営業日続落。一方、8 日は外国人投資家による売りが一服し、前日比 1.0% 高と反発した。投票日の休場に続き、臨時の公休日となった 10 日に発表された 3 月の鉱工業生産は前年同月比 3.1% 増。政策金利は市場予想通り 3.25% に据え置かれた。今週は 17 日に 1-3 月期の GDP が発表される予定。政権交代に対する市場の反応も焦点になる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。